

1. 統計データから見る川越市の高齢者の状況

2. 高齢者等実態調査から見えてきたこと

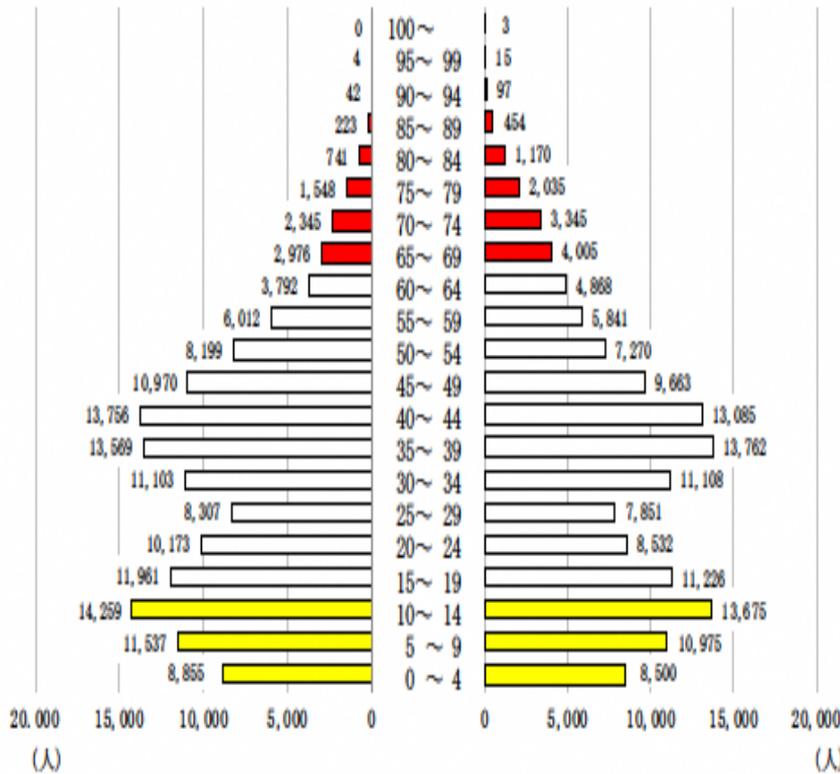
※独居高齢者世帯・高齢者夫婦世帯に焦点をあてて

統計データから見る川越市の高齢者の状況①

人口ピラミッド

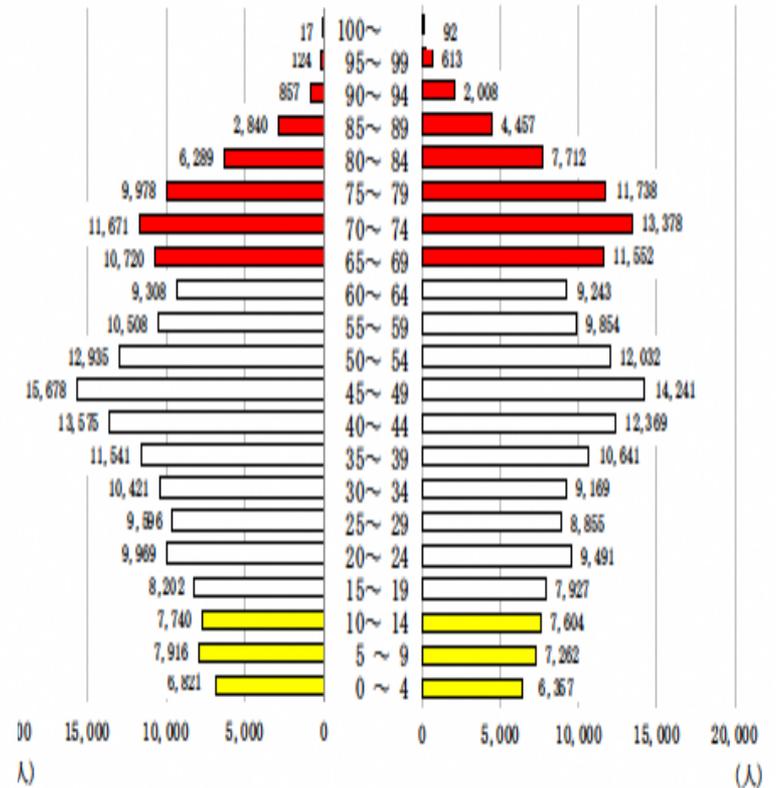
(昭和60年1月1日現在)

男 140,372人 年 齢 女 137,480人



(令和2年1月1日現在)

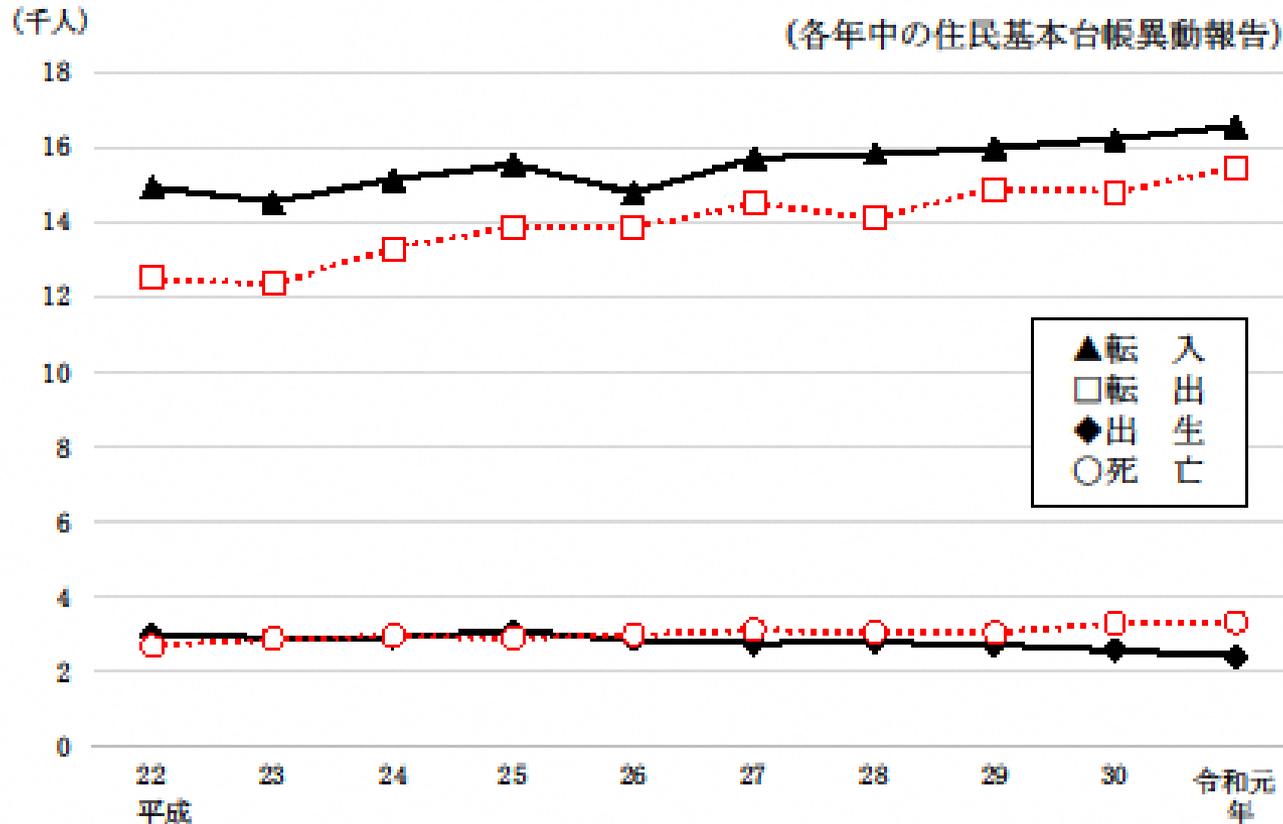
男 176,706人 年 齢 女 176,595人



資料：統計かわごえ（令和元年度）

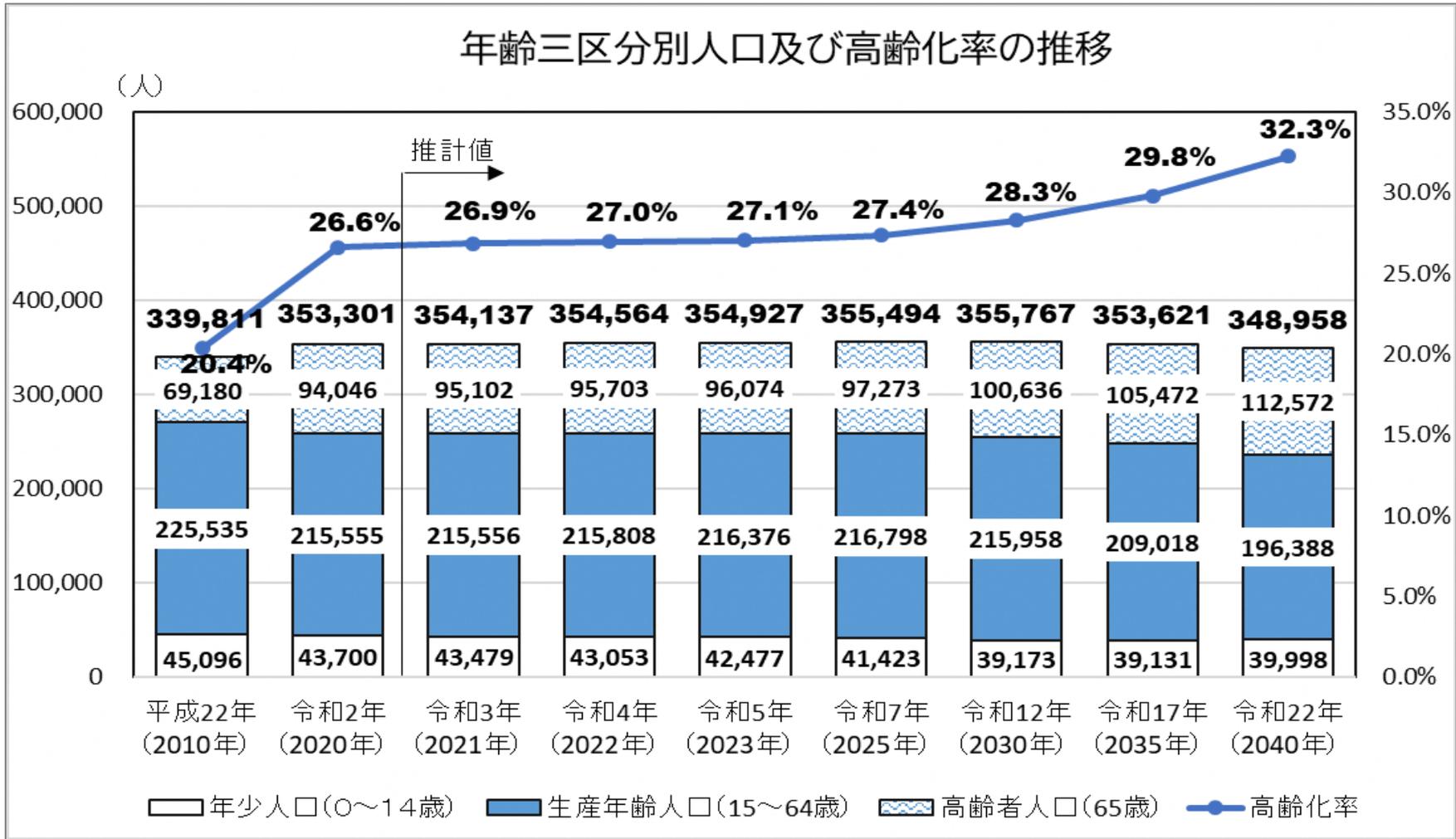
統計データから見る川越市の高齢者の状況②

人口自然動態及び社会動態の推移



資料：統計かわごえ（令和元年度）

統計データから見る川越市の高齢者の状況③

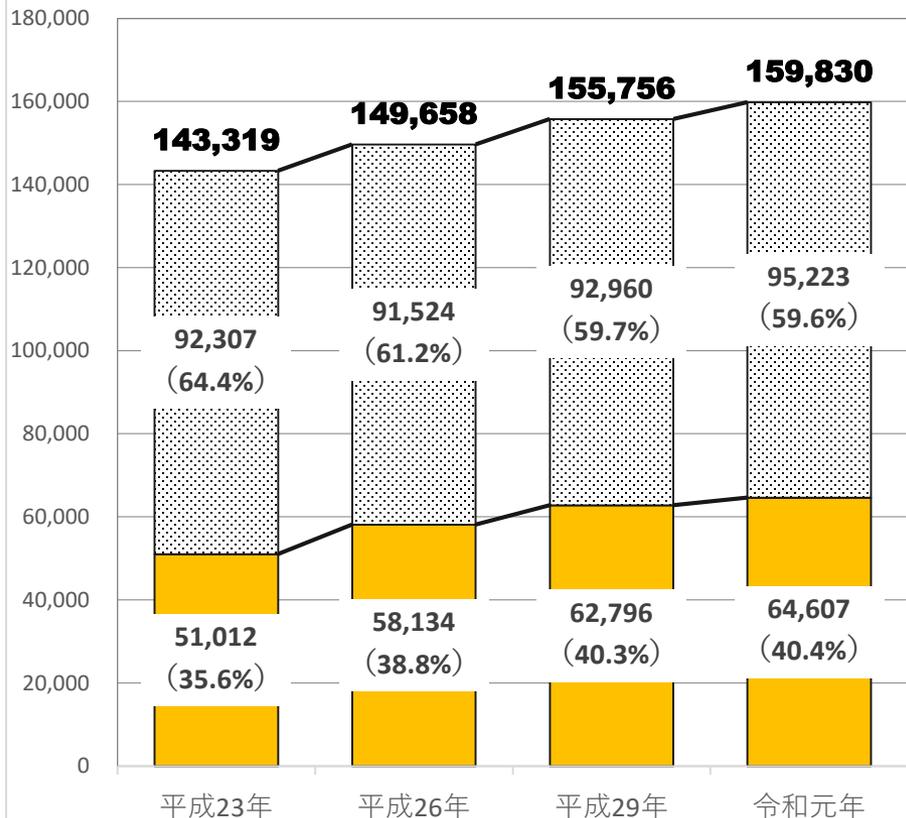


資料：住民基本台帳及び川越市人口ビジョン（令和2年3月作成）

統計データから見る川越市の高齢者の状況④

高齢者の世帯状況

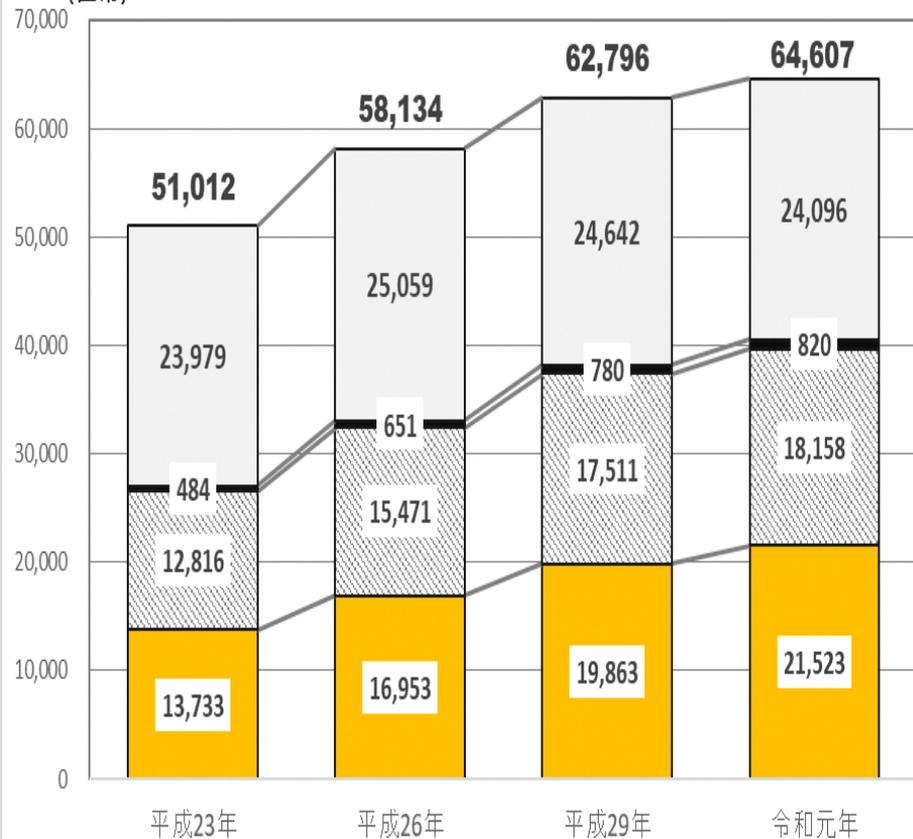
(世帯)



■ 高齢者がいる世帯 □ 高齢者がいない世帯

高齢者のいる世帯の状況

(世帯)



■ 高齢者ひとりの世帯 □ 高齢者夫婦のみの世帯
 ■ その他の高齢者のみの世帯 □ 高齢者とそれ以外で構成される世帯

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

統計データから見る川越市の高齢者の状況⑤

	2010年（実績）	2020年（実績）	2025年	2040年
65歳以上人口 15～64歳人口	$\frac{1人}{3.26人}$	$\frac{1人}{2.29人}$	$\frac{1人}{2.23人}$	$\frac{1人}{1.74人}$

→現役の年齢階層を20～64歳、高齢者を65歳以上と設定した場合

	2010年（実績）	2020年（実績）	2025年	2040年
65歳以上人口 20～64歳人口	$\frac{1人}{3.03人}$	$\frac{1人}{2.12人}$	$\frac{1人}{2.06人}$	$\frac{1人}{1.62人}$

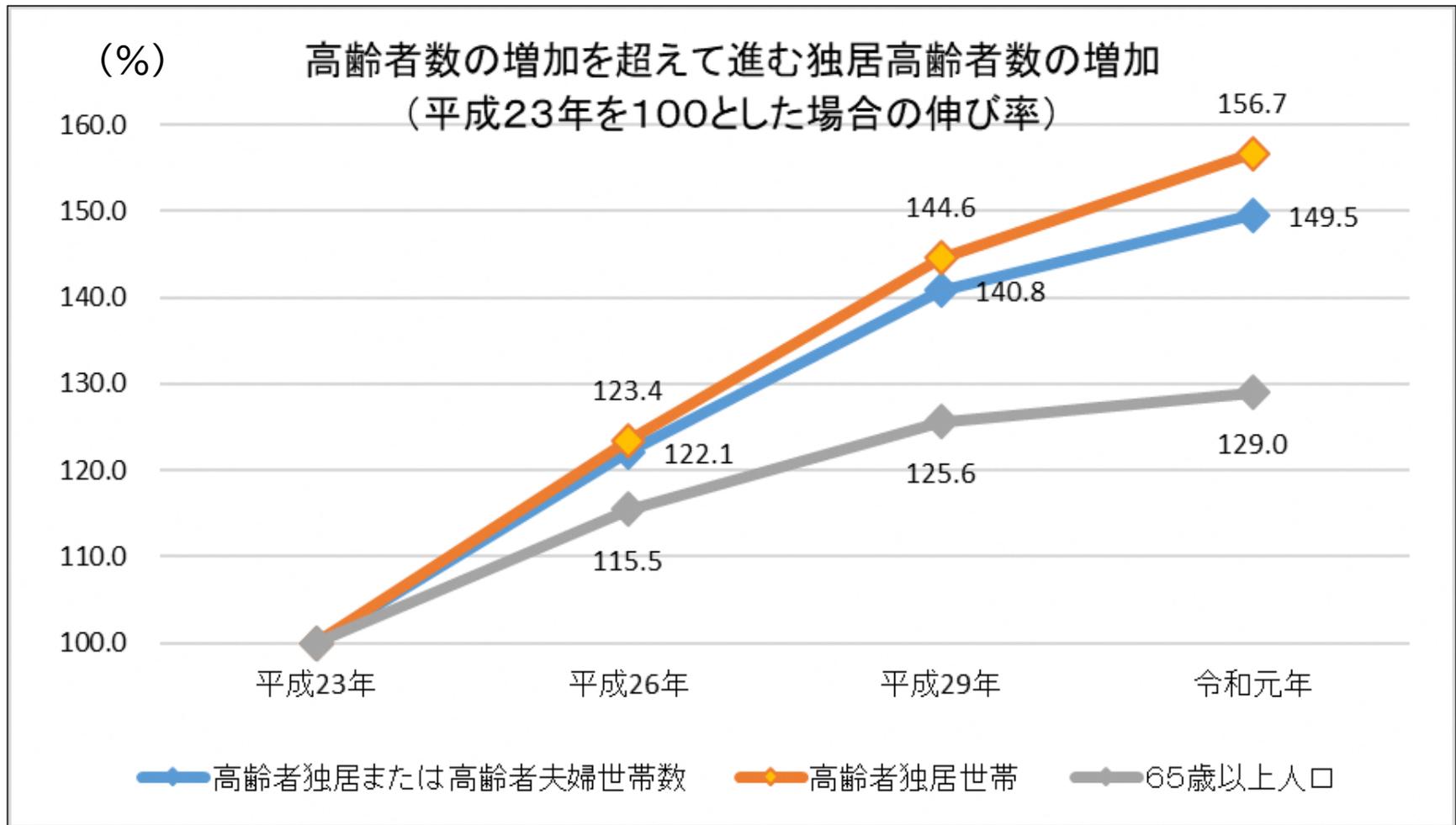
2025年には、65歳以上の方ひとりを20歳から64歳の方**2.06**人で、2040年には**1.62**人で支えることになる。

→今後、定年制度の延長等を見据え、現役の年齢階層を20～69歳、高齢者を70歳以上と設定した場合

	2010年（実績）	2020年（実績）	2025年	2040年
70歳以上人口 20～69歳人口	$\frac{1人}{5.34人}$	$\frac{1人}{3.09人}$	$\frac{1人}{2.77人}$	$\frac{1人}{2.51人}$

2025年には、70歳以上の方ひとりを20歳から69歳の方**2.77**人で、2040年には**2.51**人で支えることができる。

統計データから見る川越市の高齢者の状況⑥



65歳以上人口の伸び率よりも高齢者独居世帯の伸び率が高くなっている。
今後、高齢化率の上昇に伴い、高齢者独居世帯及び高齢者夫婦世帯の増加が見込まれる。

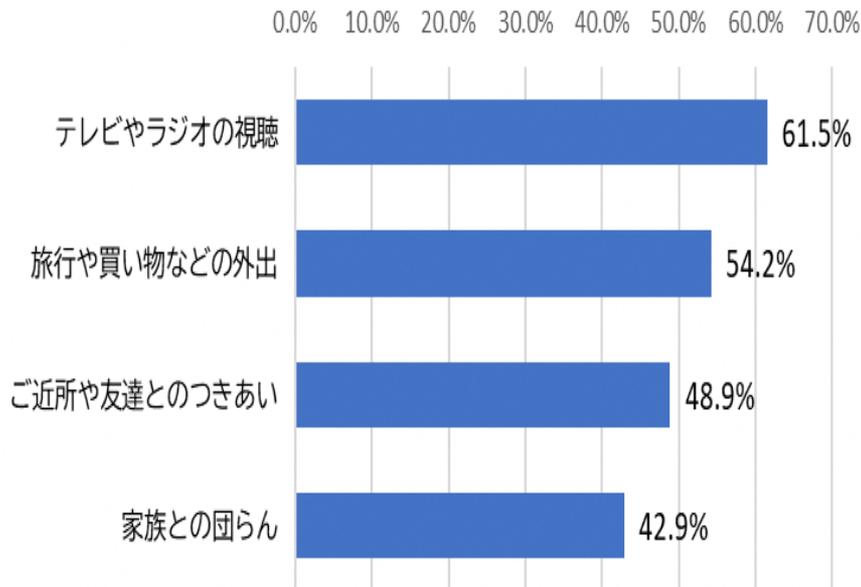
1. 統計データから見る川越市の高齢者の状況

2. 高齢者等実態調査から見えてきたこと

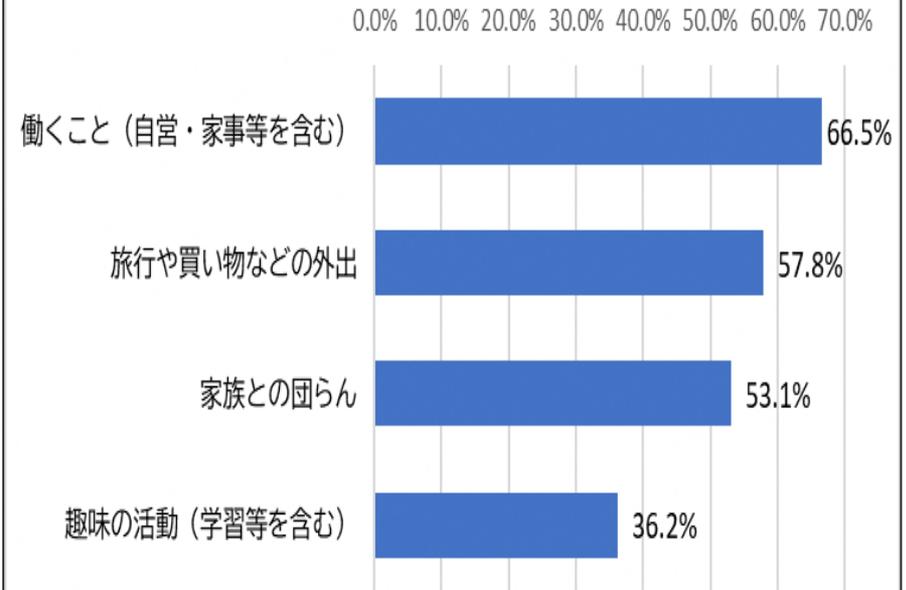
※独居高齢者世帯・高齢者夫婦世帯に焦点をあてて

【高齢者等実態調査から見えてきたこと①】

生きがいを感じていること
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)



生きがいを感じていること
(保健・福祉等実態調査)

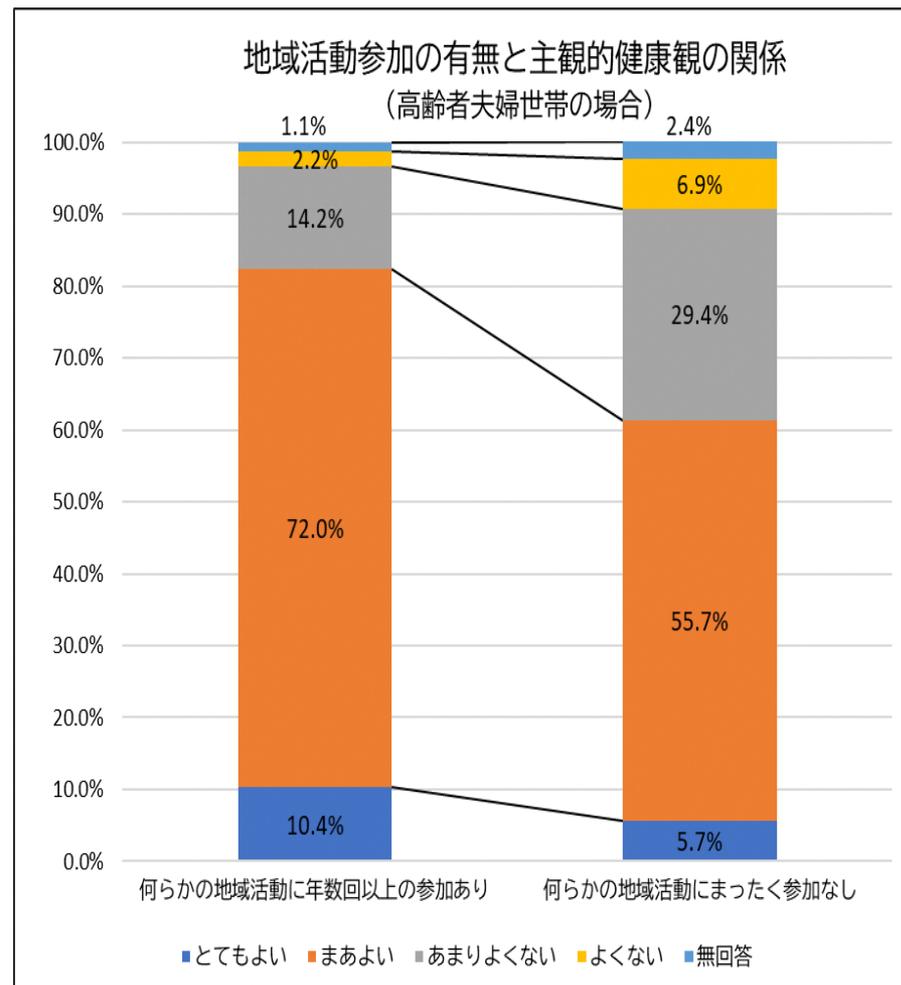
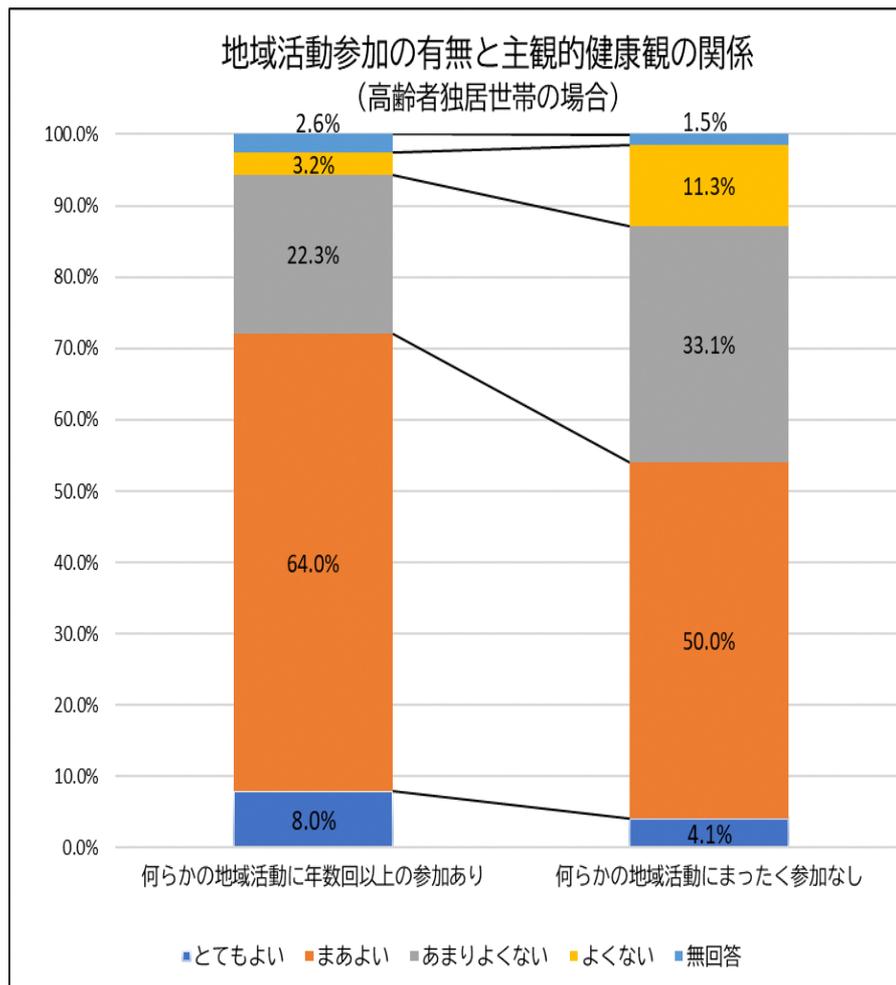


生きがいを感じていることで共通していることは
『外出すること』 『人とつながること』

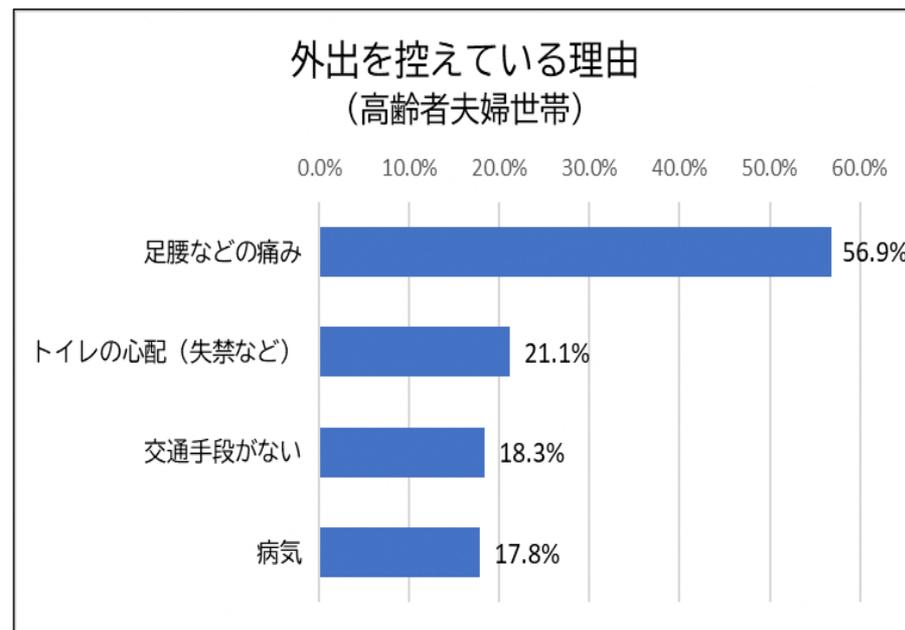
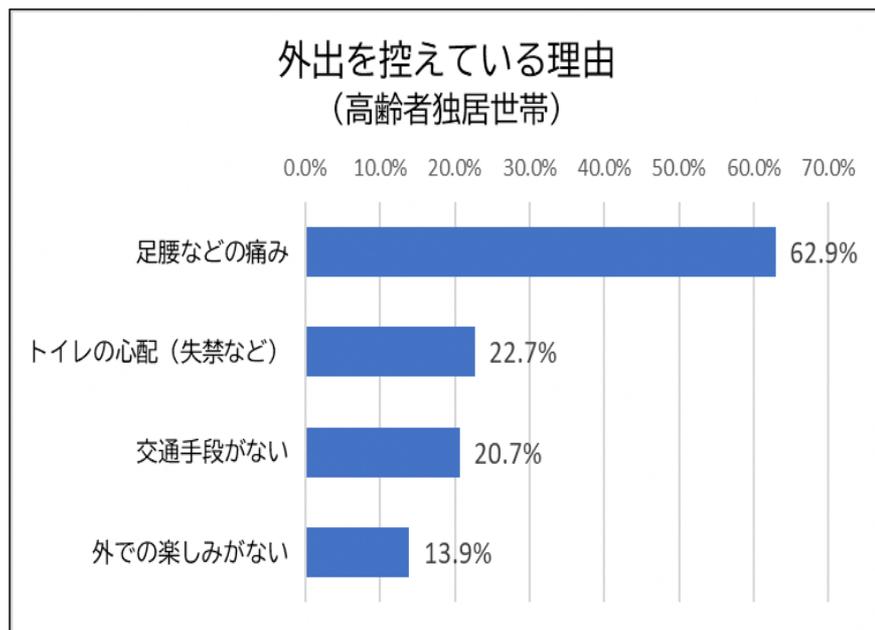
【高齢者等実態調査から見えてきたこと②】

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果によると、地域活動へ参加をしている人の方が、自分自身の健康について「とてもよい」「まあよい」と答えた人の割合が多く見られた。

今後、高齢者独居世帯や高齢者夫婦世帯の増加が見込まれる中で、地域活動の参加等で「人と人が関わり合う機会」があることは、健康の維持につながり、また孤立や孤独を防ぐこともできる。



【高齢者等実態調査から見えてきたこと③】

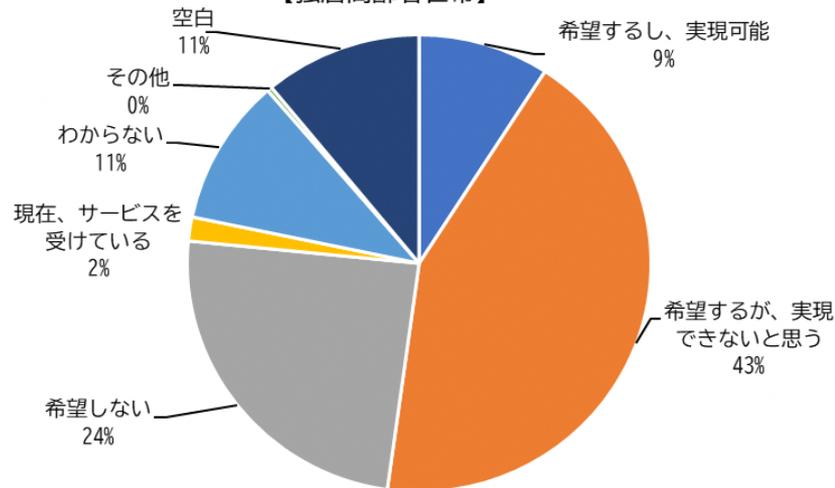


『外出すること』を控えている理由として、身体面の影響だけでなく、交通手段がない、外での楽しみがない等の環境的因子も理由となっている。

【高齢者等実態調査から見えてきたこと④】

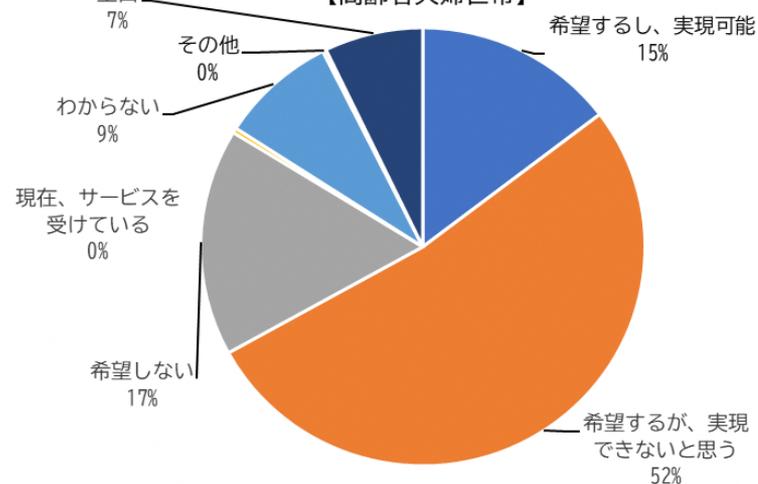
自宅で最期まで過ごすことを希望するか？
また、実現可能だと思うか？

【独居高齢者世帯】



自宅で最期まで過ごすことを希望するか？
また、実現可能だと思うか？

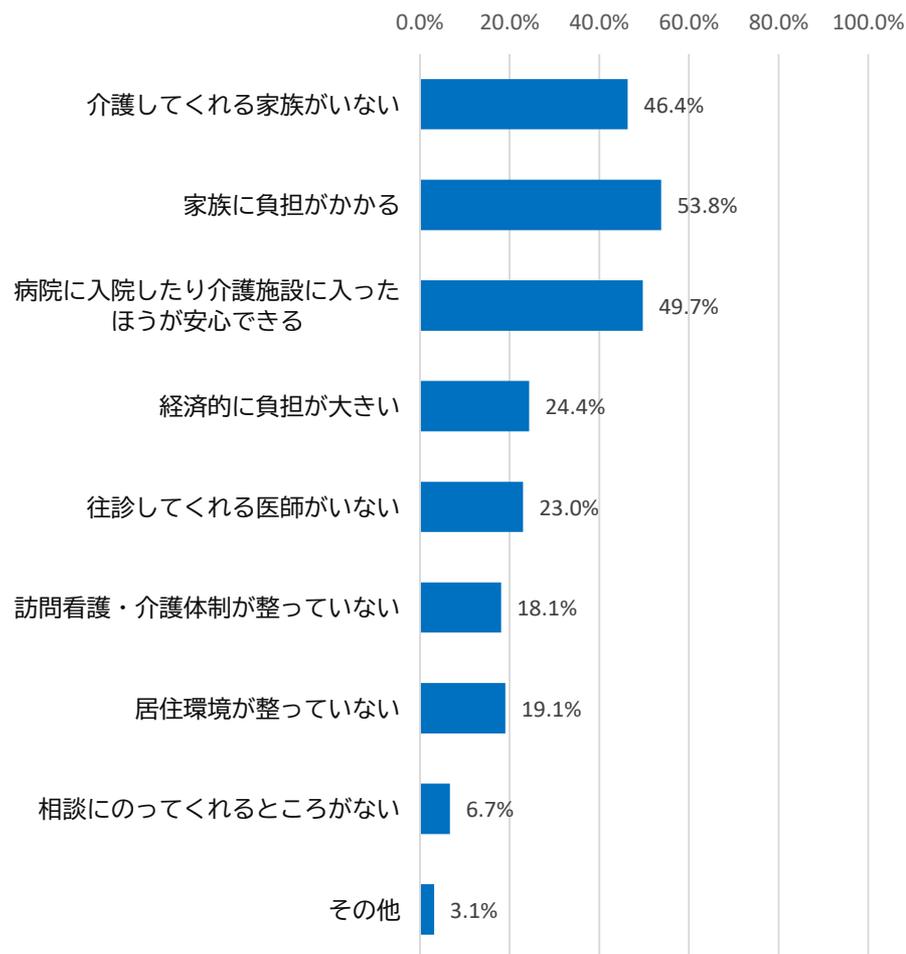
【高齢者夫婦世帯】



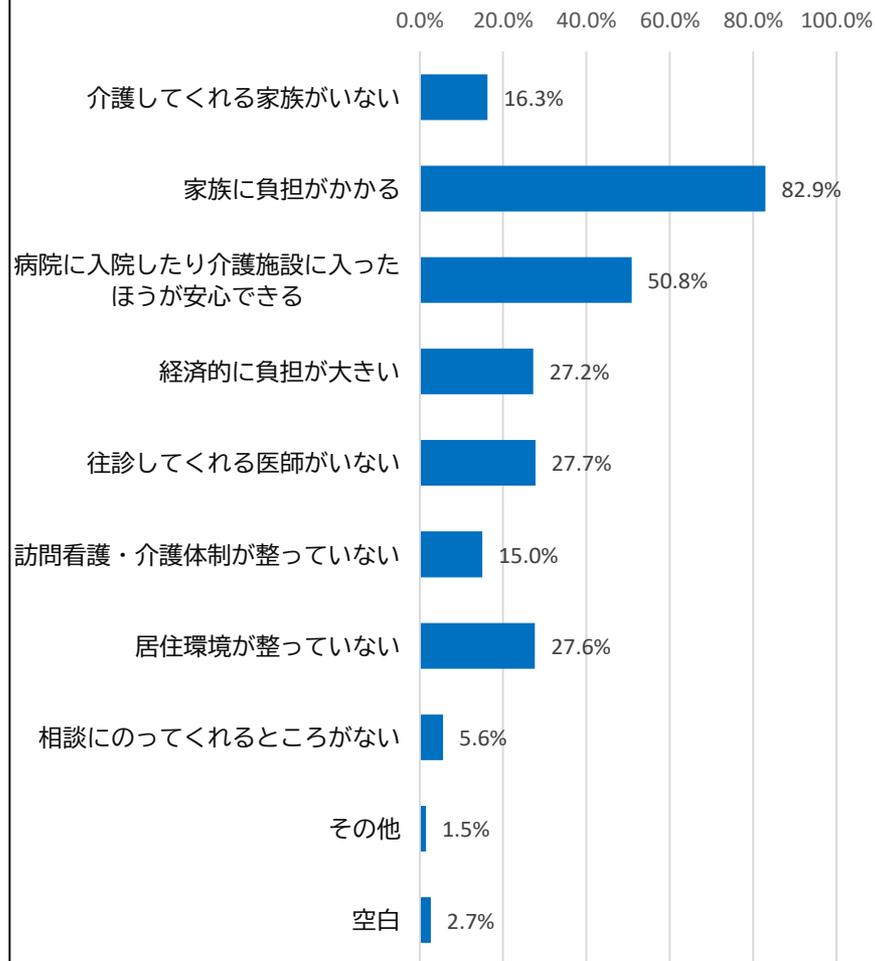
独居高齢者世帯では約半数、高齢者夫婦世帯では約6割強の人が、自宅で最期まで過ごすことについて希望している。しかしながら、独居高齢者世帯及び高齢者夫婦世帯において、希望者のうち約8割が実現できないと思うと回答している。

【高齢者等実態調査から見てきたこと⑤】

自宅で過ごすことを希望しない
または過ごすことが難しいと思う理由
【独居高齢者世帯】



自宅で過ごすことを希望しない
または過ごすことが難しいと思う理由
【高齢者夫婦世帯】



【高齢者等実態調査から見えてきたこと⑥】

本市が取り組むべき高齢者施策として、次のうちどれを優先して充実すべきだと思いますか？

(独居高齢者世帯)

年齢	性別	身近なところで相談が行える 相談窓口の充実	家族介護者の支援策を 充実すること	介護予防に関する 取り組みの充実	外出しやすいまちづくり	高齢者の就労対策の充実
全体		40.2%	32.5%	27.3%	25.4%	9.9%
65～69歳	男性	37.3%	11.8%	29.4%	15.7%	33.3%
	女性	27.7%	12.8%	25.5%	21.3%	21.3%
70～74歳	男性	33.3%	10.5%	17.5%	14.0%	21.1%
	女性	29.5%	15.9%	22.7%	20.5%	8.0%
75～79歳	男性	50.0%	9.5%	38.1%	14.3%	14.3%
	女性	28.6%	11.1%	22.2%	33.3%	8.7%
80～84歳	男性	31.1%	6.7%	31.1%	20.0%	0.0%
	女性	38.5%	10.4%	22.4%	32.8%	2.6%
85歳以上	男性	31.3%	14.1%	29.7%	12.5%	2.3%
	女性	34.3%	14.3%	19.1%	26.7%	1.2%

(介護予防・日常生活圏域二一ズ調査)

【高齢者等実態調査から見えてきたこと⑦】

本市が取り組むべき高齢者施策として、次のうちどれを優先して充実すべきだと思いますか？

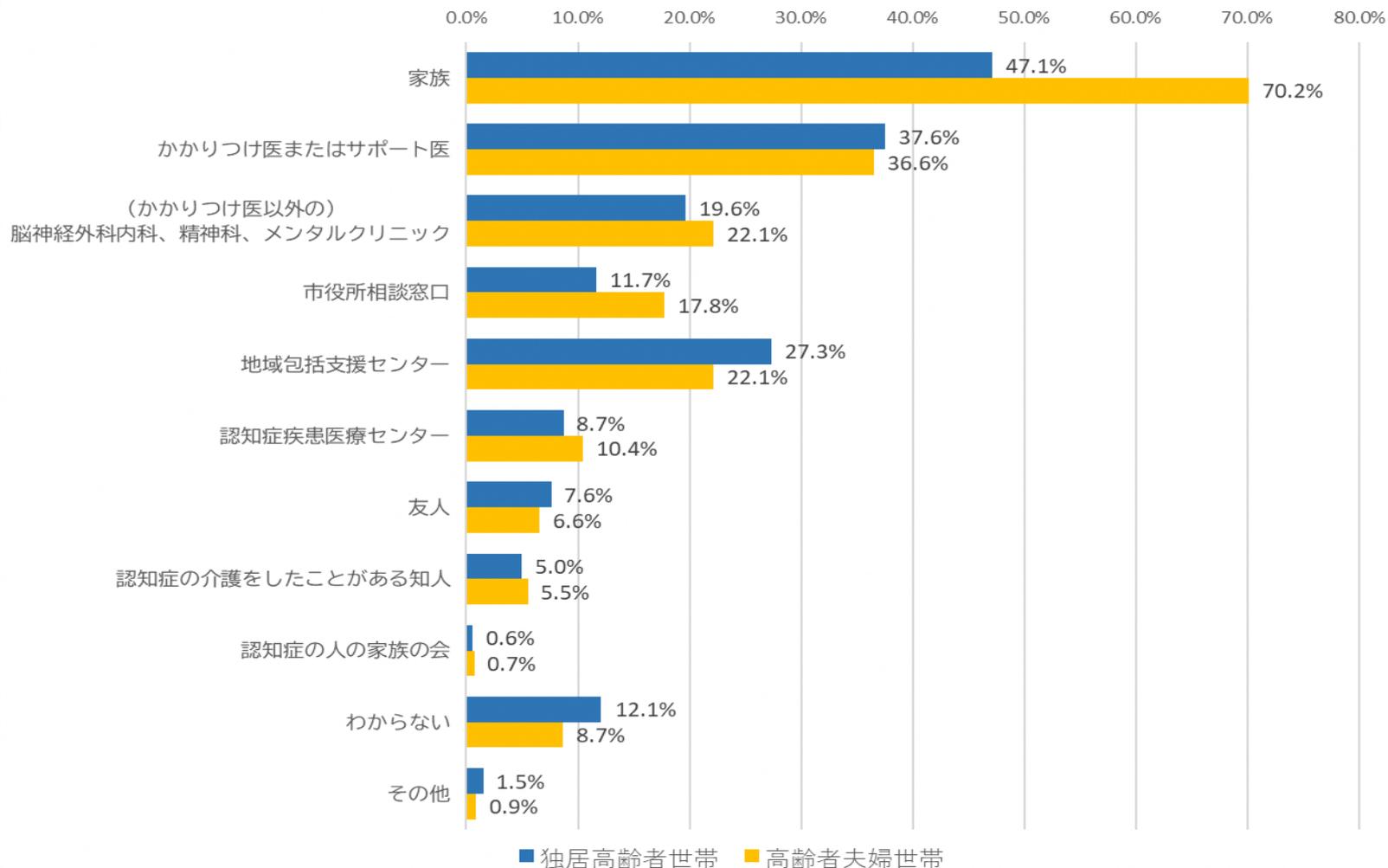
(高齢者夫婦世帯)

年齢	性別	身近なところで相談が行える 相談窓口の充実	家族介護者の支援策を 充実すること	介護予防に関する 取り組みの充実	外出しやすいまちづくり	高齢者の就労対策の充実
全体		40.2%	32.5%	27.3%	25.4%	9.9%
65～69歳	男性	26.7%	38.4%	24.4%	15.1%	14.5%
	女性	43.7%	36.5%	20.3%	22.3%	13.2%
70～74歳	男性	31.3%	39.5%	27.6%	16.0%	20.2%
	女性	45.4%	34.1%	21.8%	25.8%	9.2%
75～79歳	男性	37.1%	36.2%	30.0%	18.1%	8.6%
	女性	38.0%	24.6%	24.1%	24.6%	6.4%
80～84歳	男性	39.4%	26.1%	28.5%	25.5%	6.1%
	女性	47.5%	40.0%	23.8%	30.0%	2.5%
85歳以上	男性	39.5%	30.4%	25.5%	14.1%	4.6%
	女性	44.8%	28.7%	16.1%	23.0%	2.3%

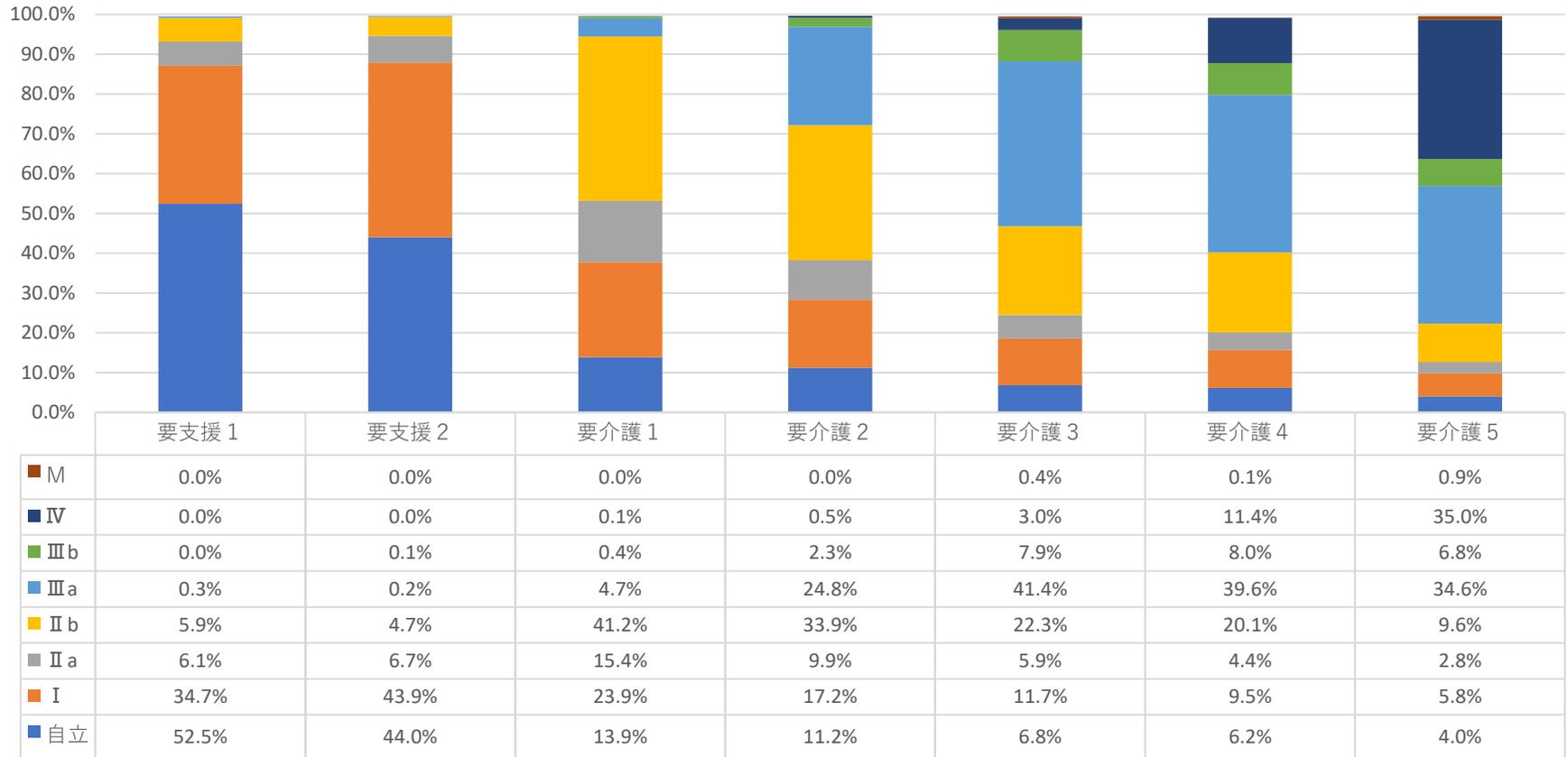
(介護予防・日常生活圏域二一ズ調査)

【高齢者等実態調査から見えてきたこと⑧】

「認知症かな」と感じた時にどこに相談するか



要支援・要介護度別認知症高齢者の日常生活自立度



■ 自立 ■ I ■ IIa ■ IIb ■ IIIa ■ IIIb ■ IV ■ M

(令和2年4月1日現在)

要支援・要介護度が重くなるにつれ、認知症高齢者の日常生活自立度も重くなっていることがわかる。

また、認知症高齢者の日常生活自立度で日常生活にサポートが必要となってくるⅡa以上の人は、認定者の約6割を占めている。

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記IIの状態がみられる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態がみられる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活のに支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記IIIの状態がみられる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行動等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態がみられる。	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	
M	著しい精神症状や知周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等